

愛媛大学 第3期中期目標期間における戦略に関する進捗状況 <令和元年度> ～愛媛大学のVISION 輝く個性で 地域を動かし世界とつながる大学～

令和2年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果 (a評価～d評価の4段階評価)

著しく進捗 = a評価

目標以上 = b評価

戦略1

地域の持続的発展を支える人材育成の推進

地域の課題発見・解決等のための汎用的能力を備えた人材を地域に輩出



▲ FD/SD講習の様子

① 目的意識の高い学生の確保

愛媛大学が基幹校となり、四国5国立大学で開発したインターネット出願システムを用いて「活動報告書」や「志望理由書」を活用するとともに、調査書の点数化を進めることで、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定する入学者選抜を推進した。

主体性を評価する「新入試」
受験者の割合 60.5%

目標以上

R1目標 40%

② 汎用的能力を備えた学生の育成

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開や、準正課教育や正課外活動を含む大学生活全体を通して、学生が「愛大学生コンピテンシー」(愛媛大学の学生として卒業時に身に付けていることが期待される能力)を習得できるよう、多様な機会を提供した。

※準正課教育とは、通常の授業とは別に、学生が自ら進んで取り組む活動やプロジェクトを教職員が責任を持ってサポートし、学びの機会を提供していく教育活動や学生支援活動

愛大学生コンピテンシーの習得率 92.8%
※卒業予定者アンケート

目標以上

R1目標 87%

③ 教職員の能力開発 (FD/SD)

学生が期待される能力を確実に身に付けられるよう、本学の教職員約1,400人を対象として、本学独自の高度なFD/SD講習を開講した。さらに、自大学のみならず他大学の教職員にも提供し、全国の高等教育機関の能力開発のための拠点としても取り組んだ。



目標進捗達成!

目標以上

本学独自の高度なFD/SD講習の受講者数
期間累計11,282人

R1目標 8,550人

戦略2

地域産業イノベーションを創出する機能の強化

地域産業イノベーション、地域専門人材育成を通して地域創生「まち・ひと・しごと創生」に貢献



▲ 「地域協働センター南予」開所式

① 地域専門人材の育成

「地域専門人材育成・リカレント教育支援センター」を設置し、社会人リカレント教育を推進するとともに、社会的ニーズに対応したプログラムを提供した。地域創生イノベーター育成プログラムでは、各自治体等からも講師を招き、地域の現状と課題を理解した上で、課題解決を導くプロセスを体験できるプログラムとした。



著しく進捗

リカレント教育プログラム受講者数
期間累計4,003人

R1目標 2,400人

② 地域に密着した中核機能を発揮

平成28年度に東予地域の西条市に設置した「地域協働センター西条」に続いて、地域課題がある程度共通な南予9市町を対象地域とする「地域協働センター南予」を西予市に設置した。また、令和元年度までに愛媛県内全20市町との連携協定の締結を達成した。これらの取組により、「地域に密着した中核機能」の発揮状況に関する自治体へのアンケート調査において、15市町から「(愛媛大学は)地域に密着した中核機能を発揮している」と評価された。

愛媛県内の市町へのアンケート結果
15市町で高評価

目標以上

R1目標 15市町

③ 新事業の創出

県内自治体や企業からの様々な相談や情報交換から抽出されたニーズに対して、学内研究者とのマッチングを図り、地域課題の解決や地域産品の活用を目的とした共同研究・受託研究を推進した。これらの取組により、新規の機能性食品素材として期待される温州みかん葉を利用した「みかん葉こう茶(株式会社松南園、伊方サービス株式会社)」など、新たに5件の新事業を創出した。



著しく進捗

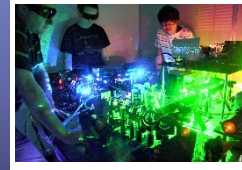
新事業の創出数
期間累計15件

R1目標 6件

戦略3

世界をリードする最先端研究拠点の形成・強化

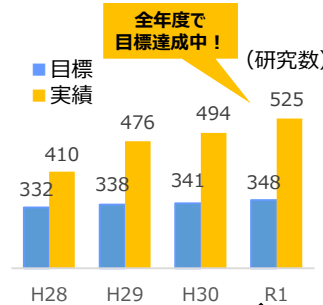
最先端研究を推進し、基礎科学研究の成果を社会に還元



▲ レーザー装置による実験の様子

① 共同研究の推進

地球深部ダイナミクス研究センターの「ヒメダイヤ」、沿岸環境科学研究センターの「es-BANK」、プロテオサイエンスセンターのコムギ無細胞タンパク質合成技術による「タンパク質アレイ」を利用した共同研究など、共同利用・共同研究拠点形成プロジェクトに対し、重点的な支援を行った結果、最先端研究3センターにおける共同研究数は目標を大きく上回った。



著しく進捗

最先端研究3センター共同研究数
525件

R1目標 348件

② ハイインパクトジャーナルへの掲載

最先端研究3センターにおいて、共同研究を推進した結果、ハイインパクトジャーナル掲載数は目標を大きく上回った。ハイインパクトジャーナル(重要性又は影響度の高い学術雑誌)へ掲載することで、国際的な競争環境の中で世界の有力大学に伍して研究成果を発信した。

目標以上

ハイインパクトジャーナルへの掲載数
最先端研究3センター 90件

R1目標 70件

③ 次世代先端研究拠点の育成

新たに3件のリサーチユニットを認定し、平成28年度から令和元年度にかけて、累計11件の新規リサーチユニットを立ち上げた。これにより、学内の教員約800人のうち、約100人の教員が先進的な学内研究拠点に参画することとなり、新たな分野の研究者コミュニティを形成し、研究活動の推進と活性化を図った。

目標以上

リサーチユニット認定件数
期間累計 11件

R1目標 8件